

深井奨学財団（戸山高校奨学基金）からお礼とご報告

公益財団法人深井奨学財団 理事長 井上 尚男

城北会は戸山高校創立100周年記念事業の一環として深井奨学事業を再活性化するため1985年から寄附集めを開始し、100周年時には5000万円強の寄附を頂戴して新生深井奨学事業を始める事が出来ました。以来、城北会会員皆様の継続的なご支援のおかげで2022年3月末には、指定正味財産残高**2億8百万円**の規模まで本財団を成長させていただきました。ありがとうございました。

2021年度は、会員諸兄姉から頂戴したご寄附が、327件 304名から**総額 4,360,000円**（予算4,000,000円）となりました。厚く御礼申し上げます。なお、前年度のご寄附総額4,954,000円との実績比では、12%減となっております。本年度もぜひ多大のご支援の程をお願い申し上げます。

2014年度から新たに始めた「東京都立戸山高等学校の総合的な教育活動に対する助成」事業に対して、2021年度は、85名の個人会員から合計340,000円の寄附をいただき、御礼申し上げます。なお、当財団への寄附者のご氏名は、本誌第70号に掲載して謝意を表します。

財団の2021年度の奨学事業実績は、深井奨学給付生34名に396万円、大学入学お祝い金（一人24万円）については、現役生7名、既卒1名に192万円。奨学金の合計では588万円を給付することが出来ました。

また、戸山教育助成事業は、「豪州サイエンス研修」、「米国サイエンス研修」が2021年度もコロナ禍のため中止されましたので、実績はありませんでした。

2022年度の奨学事業計画は、深井奨学生36名に月々1万円の給付と、大学入学祝い金（一人24万円）を14名に給付する公益目的奨学事業に768万円の予算を組みました。

また、戸山高校が掲げる「国際社会に貢献するトップリーダーの育成」のミッションに即して、今後とも海外研修奨学助成の重要性が増すことは必至と考え、戸山生に対しての海外研修奨学助成を主に、戸山教育助成予算65万円を組みました。総事業予算は、公益目的奨学事業費、戸山教育助成事業費、管理費等を含め合計1,092万円余の予算を計上致しました。

今年の2022年度事業計画書並びに収支予算書を組むに当たり、指定正味財産の運用益だけでは不足しますので、会員皆様からの奨学基金寄附金収入に頼らざるを得ず、奨学寄附金収入予算は400万円を計上しております。また、税制の優遇措置が受けられない「使途指定（戸山教育助成）寄附金」収入予算は、40万円を計上致しております。

以上の点をよろしくご賢察のうえ、本年度も城北会の会員の皆様には一層のご支援とご協力をお願いする次第です。

寄附金収入のうち、城北会年会費と同時に振り込む「口座自動振替ご寄附」（継続賛助会員）は、初年度の2007年度25件からはじまり、2020年度は84件、912,000円で、2021年度は78件、891,000円でした。本年度も、城北会年会費2,000円、奨学基金1,000円と戸山教育助成へ1,000円と是非積み上げてお振込頂きたく、継続賛助会員の皆様にはご協力をお願いいたします。

なお、2021年度の公益財団法人深井奨学財団に関する詳細な決算及び財務諸表は、深井奨学財団定時評議員会による所定の手続を経たうえ深井HPで電子公告いたしますのでご覧願います。

<https://toyamaob.org/zaidan/>